

埼玉新聞社撮影報道写真フィルムの整理と公開

兼子順・加藤かな子・前田芳江

はじめに

埼玉県立文書館に所蔵されている埼玉新聞社撮影報道写真フィルムは、昭和22年から昭和59年にかけて埼玉新聞社が『埼玉新聞』に掲載するために撮影した写真のネガフィルムである。埼玉新聞社では長年にわたり整理保管してきたが、平成13年2月から平成17年3月にかけて5回に分けて埼玉県立文書館に寄贈された。文書館では、平成13年度から、ネガフィルムをクリーニングのうえ、専用ネガフォルダーで保存するなどの整理保存作業を進め、公開のためのデジタル化等の事業を行ってきた。

ネガフィルムの整理保存事業については平成23年度に終了し、デジタル化事業については平成25年度に終了し、現在は公開作業を進めているところである。

そこで、埼玉新聞社撮影報道写真フィルムの概要、その整理・保存事業の概要、その公開状況について報告したい。

なお、整理保存事業の初年度である平成13年度の事業内容については、すでに報告されているので、参照してもらいたい。（新井浩文『埼玉県立文書館における戦後写真資料整理事業について』『月刊IM』Vol. 41No. 11 2002年11月）

また、埼玉新聞社撮影報道写真については、埼玉新聞に掲載されている記事とともに利用できることから、撮影年月日や撮影内容が特定でき、様々な利用がされてきている。

昭和46年の埼玉百年記念事業の一つとして刊行された写真集『目でみる埼玉百年』や、『新編埼玉県史』現代の通史編・資料編、民俗編などに多数の写真が掲載されている。平成2年に埼玉新聞社が刊行した写真集『埼玉

の昭和』にも多数の写真が利用されている。

1 埼玉新聞社撮影報道写真フィルムについて

埼玉新聞社は、戦時統制下の一県一紙体制として発足した『埼玉新聞』が昭和19年10月に終刊となった後、同年同月に社団法人として設立された新聞社（昭和31年株式会社に改組）で、浦和市岸町6丁目に所在した（平成20年4月さいたま市北区吉野町の現在地へ移転）。新聞の発行は、昭和19年10月16日付からで、タブロイド判2ページの第1号を県下に送り出している（『埼玉新聞五十年史』）。第1号をみると、写真は1枚も掲載されていない。昭和21年をみても、年に数枚である。昭和22年以降になると、『埼玉新聞』には、ほぼ毎日写真が掲載されるようになっていく。

同社で撮影された写真は、『埼玉新聞』以外に、同社の出版部から昭和24年から毎年刊行している『埼玉要覧』（昭和31年から『埼玉年鑑』に改称）にも掲載利用されている。

『埼玉新聞』の紙面も、昭和27年9月1日付から4ページ建てとなり、昭和31年4月1日付から週3日8ページ建てで発行されるようになる。取材網も、春日部市に東武総局、熊谷市に県北総局、大宮市に県南総局、所沢市に西武総局をそれぞれ置き、そのもとに支局、通信部などが県内各主要都市に配置されている。昭和30年10月に県内総合版を設け、31年1月には地方版のページも新設されている。

昭和34年と昭和42年には、新社屋の建設が行われ、写真部も移動している。フィルムの整理・保管は、カメラマンの明石田正良写真部長が担当していた。

寄贈されたフィルムは、昭和22年2月18日が最も古く、昭和59年12月31日が最も新しいものである。

フィルム・サイズは、ブローニー（6×9、6×7、6×6、6×4.5）と35mmで、昭和20年代はブローニーの割合が高く、時代が下がるにしたがい35mmの割合が高くなる。41年以降はほとんどが35mmとなり、35mmのハーフサイズも混じるようになる。

埼玉新聞社でのフィルムの保管は、昭和22年から31年12月までのフィルムは、わら半紙に包み、5段の引き出しのある木製タンスの引出に日付順に収納されていた（写真1）。

「A」・「B」・「C」の紙札が貼られた3つのタンスである。32年以降の年代のフィルムは、カビネ判印画紙の空箱を利用し整理していた。フィルムを包むわら半紙には、日付と撮影内容が鉛筆か万年筆で記載されているが、昭和32年以降になると、日付だけがほとんどとなり、内容の記載がされなくなる。また、35mmは、4カットを1連として、日付ごとにわら半紙に包まれていた。

フィルムとともに「撮影記入帳」も、昭和23年1月から28年12月まで7冊が残されている。また、月ごとに作成されていた「撮影予定表」も、昭和24年・28年～30年・33年・34年・36年～38年分と39年のオリンピック分が残されている。

寄贈されたネガフィルムは、昭和22年から昭和59年までのものであるが、昭和22年は4件13カットしかなく、31年・32年・39年・40年分についても、かなりの欠落が認められる。この他に、昭和42年の国民体育大会埼玉大会の写真フィルムと、平成2年に埼玉新聞社が刊行した写真集『埼玉の昭和』で使用した写真フィルム（フィルムアルバムで保管）があり、これと別に、事件写真、人物写真、「キャサリン台風写真・永久保存」と注意書きがあるガラス乾板が残されている。



写真1 フィルム収納木製タンス

2 報道写真整理事業の概要

(1) 緊急雇用創出基金の活用

埼玉新聞社から寄贈された報道写真フィルムは、戦後約40年間にわたり撮影されたもので、膨大な量が引き継がれてきた。

大変貴重な資料であることはいうまでもないが、既存の職員体制で整理作業をどのように進めていくか、また保存・管理に伴う諸経費をどう捻出するか、整理後の公開をどういう形式で行うかなど、多くの課題を抱えていたことも事実である。

そうしたなかで、平成13年度に緊急地域雇用特別交付金を財源とした彩の国緊急雇用基金（平成14年度から埼玉県緊急雇用創出基金）を活用したことにより、整理作業が大幅に進展した。以降、平成16年度まで本事業を活用し整理・保存作業を進めるとともに、平成14年度からは一般への公開も開始した。

一時中断後、平成23年度から本基金による緊急雇用事業（重点分野雇用創出事業）を再開し、同25年度までの合計7年間で、昭和59年撮影分までのフィルムの整理とデジタル化が完了したのである。

なお、入札は一般競争入札で行ったが、参加に必要な資格として「国及び地方公共団体

等において、10万点以上の写真及び写真フィルムのデジタル化に関する業務を行った実績を有する」、「資格確認として、社団法人日本画像情報マネジメント協会が発行する1級マイクロ写真士検定試験合格証又は1級文書情報管理士認定証書の写しを提出すること」という条件を課した。

また、仕様書には、実務担当者に対し「フィルムの保存・整理に関する専門的職業に3年以上従事した経験を有する正規社員が、最低2人は常駐すること」と明記した。

緊急雇用事業の場合、フィルムの取り扱いが初めてという作業従事者が大部分である。傷や汚れ、フィルムの劣化の状態を1点1点確認しながら作業を進め、状況によっては当館職員と協議のうえ作業を的確に進行していくには、現場で指揮・監督を行う実務担当者の役割は大変重要である。そのため、上記の条件を付した。

(2) フィルムの整理方法

フィルムの整理方法は、撮影年代により大きく二つに分けられる。

一つは、昭和22年～同30年までのフィルムである。この時期のフィルムは大部分がブローニーであり、フィルムの劣化も著しかった。

このため、フィルム保存の観点から、今後はフィルムからの印画紙焼付を避けるために、職員が写真をセレクトし、フィルムからキャピネサイズに引き延ばしてパライタ紙に焼き付けるという方法を採用した〔新井前掲報告：月刊IM Vol. 41-No. 112002年11月号〕。

この時期に撮影された写真は残っているコマ数も少なく、かつ埼玉県の戦後史を語るうえで貴重な写真が多いため、掲載・展示等での利用希望があった場合は、利用者パライタ紙に焼き付けた写真を撮影していただき、フィルム保全のため原フィルムの貸出は行わないことになっている。

整理を始めた平成13年度当初は、劣化の激しい昭和22年～同30年までの古いフィルムに関して、フィルム保存の観点から印画紙焼付

という手法を採用した。

それ以降の昭和31年からのフィルムについては、職員が公開・非公開の判断をしたり、利用者が閲覧室で写真の内容を確認したりするために、デジタル化を行っていた。

デジタル化した画像をプリントした、画像データ出力用紙を作成したのも、フィルム1点1点の撮影内容を確認するためであった。

展示作業等で利用する場合には、どの写真か確定し、フィルムからの印画紙焼付を想定していたため、スキャニングした画像の容量も小さくしたのである。

しかし、整理作業を進めていくにつれ、昭和31年以降のフィルムにも劣化が認められたことから、やはりフィルムは脆弱な資料と同等に保全し、掲載等の依頼があった場合には画像データを提供していくという方向に推移していった。

したがって、現在では昭和22年から同59年までのすべてのフィルムに対し、デジタル化が終了している。

(3) 整理と保存作業

緊急雇用事業で平成23年度に行った仕様書を参考に、概要を説明したい（資料1）。

なお、「ネガフィルム整理要領」と「ネガホルダー仕様書」もあわせて参照されたい（資料2・3）。

作業工程としては、「ネガフィルムの整理」、「ネガフィルムのデジタル化」の2つの流れとなっている。

「ネガフィルムの整理」に関しては、作業工程の(1)フィルムの確認及びクリーニング、(2)ホルダーへの入れ替え及び撮影データの転記、(4)撮影データの入力、(8)中性紙保存箱に入れて納品、(9)撮影データの納品、という工程となる。

この工程は、平成13年度の事業開始当初から基本的に変わらない。

本作業において重要なのが、撮影データに関することである。

撮影データは、撮影時やフィルム整理時に

埼玉新聞社で記入したメモで、わら半紙に書かれている。このメモ書きが写真の公開・非公開、また新聞に掲載されているか否かを判断するうえで重要な情報源となる(写真2)。

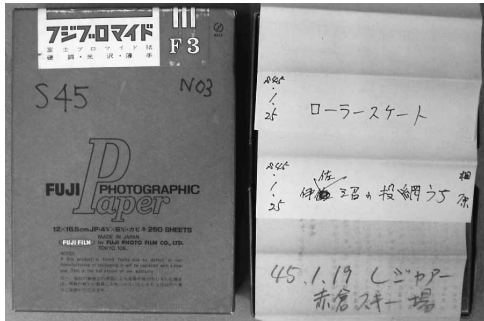


写真2 フィルム収納箱とわら半紙の包紙

もう1点、フィルムの整理作業時に、委託業者に注意して見てもらったのが、フィルムの端の切り込み(ノッチ)である。これが入っている場面は紙焼きを作っているため、紙面に掲載されている確率が高い。

こうした地道な作業を経て、フィルムは日付ごとに整理され、専用のネガフォルダーに入れられ、月ごとに中性紙保存箱に納められ、委託業者より納品となった。

現在、50万点以上にのぼるフィルムは、温室度管理され、フィルムテープ保存庫の中で保存されている(写真3)。



写真3 保存箱配架状況

(4) フィルム番号の付与

フィルムを整理するうえで、文書に文書番号を付けるのと同様に、1点1点のフィルムにフィルム番号を付けた。

基本的に、番号の頭には昭和を表すSを付けその後ろに撮影年月日が入るが、若干の相違があるので以下に記しておく。

①昭和22年～同30年まで

フィルムの大部分がブローニーであるため、撮影年ごとに月日順、タイトルごとに通し番号を付している。

「S220001 1-3」の場合、「S220001」は昭和22年の1番目に撮影した写真のタイトルで、1から3までの3枚のカットがあることになる。

②昭和31年～同59年まで

大半が35mmフィルムであるため、日付ごとに通し番号を付けている。

「S360201-01」の場合、昭和36年2月1日に撮影したフィルムで、枝番はこの日に撮影されたフィルムの通し番号である。

③国体関連写真について

昭和42年、埼玉県では9月17日～20日にかけて、第22回国民体育大会が開催された。

この一連の報道写真に関しては、国体関連写真というタイトルを付け、一般の報道写真と混在しないよう別のCD-Rで画像データを保存している。

④アルバムについて

本資料群のなかには、便宜上「アルバム」と呼んでいるフィルムの一群がある。これは、埼玉新聞社で刊行した写真集『埼玉の昭和』(平成2年)を編集する際に、新聞社で年月日ごとに保管していたフィルムのなかから担当者が選び出し、別置していたフィルムである。

この一群に関しては、①～③のフィルムと

の混同を防ぐため、整理の段階で頭にSSの文字を付けている。

なお、SS以外の番号の付け方は、②と同様である。

(5) フィルムのデジタル化

本事業が開始された平成13年頃は、他の図書館や博物館施設でも、フィルムや写真のデジタル化はほとんど行われていなかった。

まだ記録媒体としてはフロッピーディスクが主流で、光磁気ディスク（MO）でさえ容量が多いといわれていた時代であり、今後どの記録媒体が主体となっていくのか、保存年数は何年くらいなのか、古いデータを新しい端末で見ることができるのか、などについては未知数であった。

フィルムのスキャン過程で気掛かりだったのは、劣化したフィルムをますます痛めてしまわないかという点と、スキャンをすることにより、フィルム本来の風合いやオリジナリティーが損なわれてしまうのではないか、という2点であった。

また、スキャン後に行う画像処理により、今後活用する画像が決まってしまうため、委託業者には画像処理が雑にならないよう、かつフィルム本来のオリジナリティーを損なわないよう、中間検査時点で厳しく指示したこともあった。

画像ファイルの形態としては、基本的に加工しやすいJPEG（1M以内）、画質がよく保存に適しているTIFF（2M程度）の2種類で保存している。

しかし、残念ながら画像1点1点の容量は整理した年度によりまちまちとなってしまった（資料4）。オリジナルのフィルムは資料として保存し、画像を活用していこうという方針転換を行ったにもかかわらず、悔やまれる結果となってしまった。

(6) 保存用データについて

本事業により制作したデータは、下記のとおりである。

①画像データ（JPEG・TIFF）

CD-R または DVD で保存。

②撮影データ（文字データ）

平成13年度から同16年度まではアクセスデータで作成していたが、平成23年度よりエクセルデータで作成した。

過去のアクセスデータも含め、現在すべてエクセルデータに変換した。

なお、上記のデータをコピー用紙に打ち出し、背表紙を付けたネガフィルム目録もある（写真4）。



写真4 ネガフィルム目録

③画像データ出力用紙

1日単位で名刺サイズにした画像を、並列にしてプリンタ用紙に出力したもの（写真5）。

なお、①画像データ、②撮影データともに、全データを外付けハードディスクにもコピーし保存している。



写真5 画像データ出力用紙

3 埼玉新聞社撮影報道写真の公開

(1) 公開の方法

埼玉県立文書館に寄贈された埼玉新聞社撮影報道写真は、平成14年10月から一般利用への公開が始まった。現在、寄贈された写真フィルムのうち、昭和22年から昭和38年までの写真が公開されている（平成26年4月現在）。

公開の形式は、年代により大きく三種類に分けられる（表1）。

これは、公開のための整理方法が整理年代により異なるためである。昭和22年から昭和36年1月までの整理は、写真と新聞記事を照合し、新聞記事から撮影場所と内容を確認し、表題・撮影年月日・新聞掲載年月日・撮影場所を紙目録に記載した（資料5）。

更に、昭和34年～同36年1月の紙目録（資料6）には、以下の基準で写真と新聞との関連を示した。

《新聞記事との関連》

- 【掲載】 ……新聞に掲載されている写真
- 【関連】 ……新聞掲載となった写真の関連写真
- 【記事】 ……新聞には文章のみの記載で写真は掲載されなかった写真
- 【公開】 ……掲載も記事もないが、その時代の地域の様子等がわかるもの

これらの整理の仕方により、キーワード検索が可能となり、利用者にとって検索がしやすいといったメリットがあった。

一方、昭和36年2月以降の整理では、新聞記事との照合をせず、(2)に示す基準に準じて公開することとした。これは、昭和36年以降の撮影コマ数が膨大であったこと、それ以前にはあった撮影記録が昭和36年以降ほとんどなく、公開への整理が非常に難しく、時間を要するためである。

そこで、昭和36年2月の資料から公開のための整理の仕方を変更した。更に、表1に示したように、紙目録・写真カード集は作成せず、画像データ・撮影年月日目録（検索システム上の掲載）のみの公開とした（資料7）。この方法により、作業の効率化が図られ、公開のペースを速めることが可能になった。反面、キーワード検索が不可能になり、利用者は、新聞の記事から撮影年月日を予測し、直接画像データを閲覧する形となった。

(2) 公開の基準

公開のための整理に当たっては、下記の基準に準じて公開・非公開を判断した。これは、昭和22年の公開写真から一貫している基準である。

- 【埼玉新聞社撮影報道写真非公開データの基準】
以下の項目に該当する写真は公開しない

- ①個人のプライバシーに関する写真
・法廷内（裁判中）の写真

- ・容疑者等の手錠写真
 - ・容疑者の顔写真（写真の複写が多い）
 - ・被害者の顔写真（写真の複写が多い）
 - ・刑務所、教護院（現 児童自立支援施設）、少年鑑別所の収容者が写っている写真
 - ・孤児院、乳児院、児童養護施設等の入居者が写っている写真
 - ・浮浪者等の顔写真
 - ・売春婦らしき人物が写っている写真（新地の女性も含む）
 - ・外国人の指紋押捺場面のような写真
 - ・新聞に記載がなく、内容が特定できない陳情等の写真
- ② 残酷な写真
- ・死体や血痕が見えるなど、悲惨な殺人事件の現場写真
 - ・駆除した動物や食肉解体などに関する写真
- ③ 事故現場の写真
- ・事故、火事の写真
- ④ その他
- ・詳細不明の写真
 - ・画像が著しく不鮮明な写真
 - ・プライバシーの保護上、特定の個人が不利益を被ると予想される写真
 - ・公開後、利用者から非公開としている写真の閲覧あるいは新たに非公開してほしい旨の要請等を受けた場合は、古文書担当の職員が直接個別に対応し、内容によっては館長と協議する。

(3) 利用について

埼玉新聞社撮影報道写真の利用は、2階閲覧室で閲覧・利用することができる。昭和22年から同31年までは、写真カード集（印画紙に焼き付けた写真をコピーしたものを製本）での閲覧、昭和32年7月から同36年1月までは、写真カード集と画像データ（CD-R）での閲覧、昭和36年2月以降は画像データ（CD-R）での閲覧となる。

撮影の申請があった場合、昭和22年から同31年までは、古文書担当がフィルムテープ保存庫から印画紙に焼き付けた写真を出納しカメラで撮影してもらおう。昭和32年7月以降は画像データでの提供が可能である。掲載については、申請をしてもらい、古文書担当が対応する。

(4) 川口デジタルスキップステーションへのデジタル画像の提供

川口デジタルスキップステーション（以後デジタルスキップ）では、デジタル化した資料を映像公開ライブラリーで一般無料公開している。埼玉県立文書館では、平成16年度から公開された埼玉新聞社撮影報道写真の一部をデジタルスキップに提供している（平成26年度現在 766点）。

年々、デジタルスキップをとおしての掲載申請が増えている。

表1 公開の形式

年 代	公 開	検 索
昭和22年～昭和31年	・紙目録（表題・撮影年月日・新聞掲載年月日・場所） ・写真カード集 ・紙焼き写真	キーワード 検索可
昭和32年7月～昭和36年1月	・紙目録（表題・撮影年月日・新聞掲載年月日・場所） ・写真カード集 ・画像データ	キーワード 検索可
昭和36年2月以降	・撮影年月日目録 ・画像データ	キーワード 検索不可

これは、検索と同時に web 上で画像が閲覧できるという利便さからであろう。今後、平成27年度からは、テーマを絞って提供画像を選定し、テーマごとのコンテンツを公開する方向で提供する予定である。

おわりに

埼玉新聞社撮影報道写真フィルムの整理・保存については、量が膨大のため、その作業に長い時間を要した。幸い緊急雇用事業を活用することができ、フィルムの整理・保存までの作業と公開作業を進めるためのデジタル化事業が終了した。フィルム内容の公開については、報道写真という性格のため、すべて公開できないため、公開のための撮影内容の確認作業が必要であり、現在昭和38年分までが公開されている。

公開作業を優先するため、確実に公開できないもの、撮影内容が判別できないものを除

き公開とするが、写真情報は撮影年月日だけのものがほとんどとなり、新聞掲載等の照合データ作成は後日に行うこととしている。

それでも公開のための作業は、1年間に2年分くらいが限度であり、残り全部が終了するまでにはかなりの時間を要することになる。

埼玉新聞は、埼玉県全域を対象にした日刊の朝刊単独紙として、県内各地に取材網があり、戦後埼玉県内の県政や社会、文化を知るための貴重な資料といえる。また、掲載されている報道写真は当時の状況を具体的に知る貴重な資料といえ、公開に伴い今後も様々な方面からの利用が予想されるところである。

埼玉新聞社撮影報道写真フィルムは、写真が記事とともに埼玉新聞に掲載されていることから、説明のある写真として貴重である。今後も新聞記事と連携して利用することにより、歴史資料としてばかりでなく、様々な形での利用が期待される。

資料1

報道写真整理保存事業仕様書

1 件名

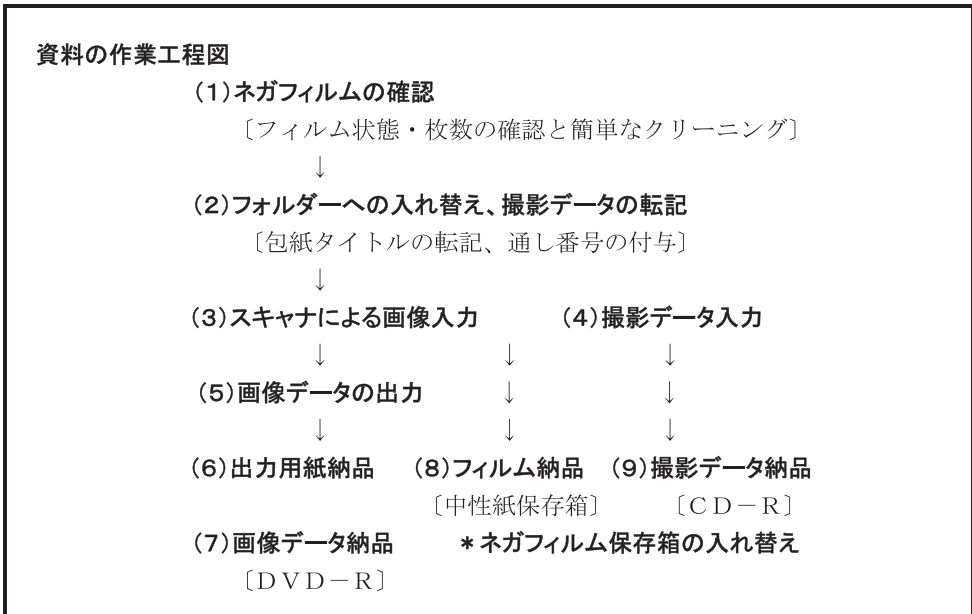
報道写真整理保存事業

2 対象資料

埼玉新聞社ネガフィルム

- ①ネガフィルムの整理（昭和56～59年） 38,000シート
- ②ネガフィルムのデジタル化作業 77,000コマ

3 委託内容



【作業工程の詳細】

資料（昭和56～59年）

(1)ネガフィルムの確認

文書館から提供を受けたネガフィルムの包紙を開封し、中のフィルムの状態と枚数を確認する。汚れがひどいものは、エタノールによる拭き取り作業を行う。

(2)ネガフォルダーへの入れ替え、撮影データの転記

ア 包紙からネガフィルムを取り出し、フィルムフォルダーに入れ替える。

イ 包紙やネガフィルムに書かれているデータをフィルムフォルダーに転記する。フォルダーは、1件1フォルダーとし、件名ごとに通し番号を付ける。最大7シートまで収納できるが、7シートを超える場合はフォルダーに小番号をつける。

(3)スキャナによる画像入力

フラットベッドフィルムスキャナにより、600dpi以上で読み込む。

(4) 撮影データ入力

- ア 取り込んだ画像に撮影年月日・標題・撮影場所等を入力する。
- イ アとは別にこれらのデータを記入した検索用データベースを作成する。

(5) 画像データの出力

- ア 取り込んだ画像データを高画質出力レーザープリンタを使用して、写真用プリンタ用紙に出力する。
- イ 写真は、1日単位で各コマを名刺サイズに拡大し、並列して出力する。また、出力した各写真には、日付等の必要なデータも付しておく。

(6)・(7)・(8)・(9) 納品

- ア ネガフォルダーは、写真保存用の中性紙保存箱に入れて納品する。
なお、一部中性紙保存箱の入れ替え作業を行う(約250箱)。
- イ 画像データは、DVD-Rにて納品。DVD-Rは合計3部納品する。
- ウ 撮影データはCD-Rにて納品する。
- エ 画像の出力用紙は、一月ごとにミシン綴じ製本した上で納品する。
ただし、厚くなり過ぎる場合は、2～3冊に分冊する。
- オ 撮影データの出力は、穴をあけ、年度ごとにバインダーに綴じ、一冊に製本して納品する。

4 作業場所等の指定

前記工程のうち、(1)～(2)までの「ネガフィルムの確認」から「フォルダーへの入れ替え、撮影データの転記」作業は、原則として埼玉県立文書館内において行う。
館外において作業を行う必要が生じたときは、委託者と協議のうえ、その許可を得て行う。

- 5 ネガフィルムの確認作業には、フィルムの保存・整理に関する専門的職業に3年以上従事した経験を有する者が最低2人は常駐すること。

- 6 受託者は、受託業務の作業手順マニュアル及び納期までの作業工程表を提出すること。

7 資料の保全と管理義務

受託者は、文書館より資料を引き受けた後は、返却するまでの間、紛失、盗難、火災等の事故防止に万全を期さねばならない。

また、その作業中の取扱いには十分注意を払い、損傷、散逸のないようにすること。

8 守秘義務

受託者は、文書館から提供された資料より知り得た秘密や情報を他に洩らしてはならない。

資料2

ネガフィルム整理要領

1 ネガフィルムの確認及びクリーニング

- (1) 現在年ごとに箱に収納されている藁半紙等に包まれたフィルムを箱から取りだし、撮影日ごとに並べ替える。1グループ1箱単位での作業を原則とする。
- (2) 藁半紙で包まれたフィルムを丁寧に取り出す。フィルムは直接触れずに白手袋を着用のこと。また、フィルム同士がくっついてしまっているものは無理に剥がさず、文書館員の指示を受けること。
- (3) フィルムの状態及び枚数（コマ数ではない）を確認する。汚れがひどいものは、エタノールを綿棒に塗布し、クリーニング作業を行う。ただし、この作業は文書館員の指示を仰ぐこと。

2 ネガフォルダーへの入れ替えと撮影データの転記

- (1) フィルムを別途作成する保存用のネガフォルダー（資料3「ネガフォルダー仕様書」参照）へ入れ替える。なお、作業開始当初はホルダーの準備が間に合わないので、暫定的措置として文書館が提供するフォルダーを使用し、後に専用フォルダーに入れ替える。
- (2) 包紙に記されている撮影データをフォルダーに転記する。また、フィルムによっては、ネガの余白部分にデータ等が注記されているものもあるので注意する。撮影日ごとにフォルダーには、1包1フォルダーとし、包みに書かれている件名（タイトル）を鉛筆（2B以上の軟筆のもの）で記入し、同カットが複数あるものは、番号部分にとりあえず枝番のみを付す。原則として、包紙やフィルムに書かれている事項は全てフォルダーに転記する。（下図参照）なお、転記する際には、原則として旧漢字は常用漢字に改める。

埼玉新聞社 ネガフィルム				
番号	撮影年月日	タイトル（撮影場所）	形態（コマ数）	備考
S560101- 1~6	昭和56年1月1日	氷川神社での初詣	36mm (6)	キズ有
-7	〃	〃	6×6 (1)	

- (3) フィルムを包んでいた藁半紙は廃棄せずに、月ごとにまとめて、中性紙封筒に入れ別に保存する。

3 ネガフォルダーの取りまとめと通番の付与

各グループごとに処理の終わったホルダーを取りまとめ、撮影年月日順に通し番号を付す。この通し番号は、整理作業の監督者が責任をもって行うものとする。

なお、この番号は、整理済み資料からの続き番号となるので、当館から別途指示する。

4 納品

ネガフォルダー保存箱に、SHCペーパー（調湿紙）を敷いて納品する。

資料3

ネガフォルダー仕様書

1 材 質

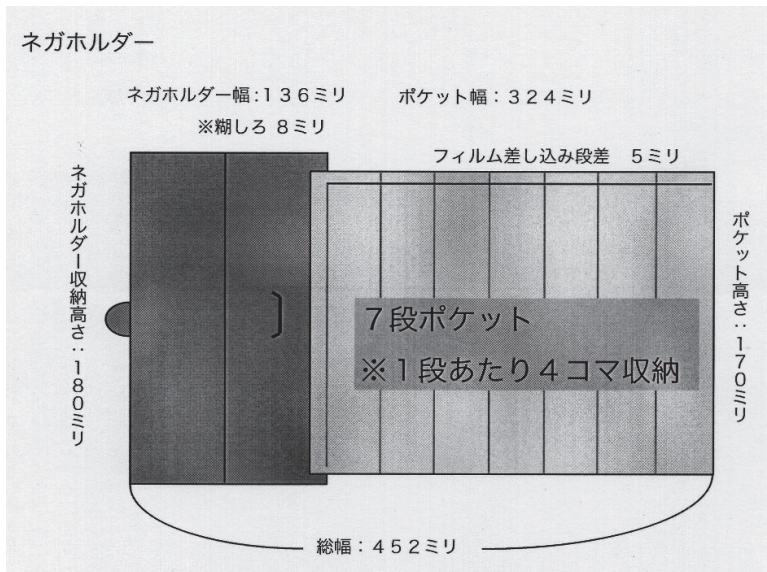
- A. ネガフィルムが接触する袋用紙
 品名：PAT合格グラシン紙
 規格：30g/m² pH7.0以上
- B. Aを包むケース用紙
 品名：AFプロテクト H
 規格：209.4g/m² pH8.5
- AとBの接着、及び袋用紙の加工に使う接着剤
 品名：ポリビニールアセテート (PVA)

2 種 類

(1) 35mmネガ用【図1】

*形状の概略等は図を参照のこと。なお、寸法等の詳細は、当館のネガフォルダーに合わせることに。

【図1】



3 その他

①ネガフォルダーに撮影データを印字して貼付する場合には、シールがはがれないようにすること。

【ネガフォルダー印刷様式】

埼玉新聞社 ネガフィルム

番 号	撮影年月日	タイトル (撮影場所)	形態(コマ数)	備 考
S56010123	昭和56年1月1日			

資料4

フィルム整理・デジタル化・公開データ点数一覧

No.	撮影年代	フィルム整理 終了年度	整理委託先	デジタル化 終了年度	デジタル化委 託先	デジタル容量	コマ数	公開データ 点数	備考		
1	昭和22年	平成13年度	板橋福祉工場	平成16年度	れいめい	S22年～26年 4月：約1MB	13	13			
2	昭和23年						212	187			
3	昭和24年						649	616			
4	昭和25年						2,640	2,282			
5	昭和26年			平成23年度	板橋福祉工場	平成23年度	板橋福祉工場	S26年5月～ 30年：約1MB	2,923	2,605	
6	昭和27年								3,974	3,526	
7	昭和28年								4,346	3,723	
8	昭和29年								4,363	2,192	
9	昭和30年								5,964	2,059	
10	昭和31年								7,936	6,804	
11	昭和32年								2,420	1,417	1～6、11・12月 フィルムなし
12	昭和33年			平成13年度	板橋福祉工場	平成13年度	板橋福祉工場	S31～40年： 200MB	8,775	5,346	
13	昭和34年								9,859	7,407	
14	昭和35年								773	549	
15	昭和36年	11,815	9,419								
16	昭和37年	平成14年度	板橋福祉工場	平成14年度	板橋福祉工場	S31～40年： 200MB	12,849	9,955			
17	昭和38年						10,090	8,254			
18	昭和39年						3,343				
19	昭和40年						8,886		1、2、4、6、7 月フィルムなし		
20	昭和41年	平成15年度	廣済堂	平成15年度	廣済堂	S41～43年： 約600KB	16,699				
21	昭和42年						22,716				
22	昭和43年						19,916				
23	昭和44年	平成16年度	れいめい	平成16年度 (S47年6月迄分)	れいめい	S44～47年6 月：約600KB、 2MB	22,561				
24	昭和45年						3,572				
25	昭和46年			平成23年度 (S49年11月迄分)	板橋福祉工場	平成23年度 (S49年11月迄分)	板橋福祉工場	S47年7月～5 9年：約1MB、 2MB	5,735		
26	昭和47年								10,843		
27	昭和48年								27,896		
28	昭和49年								27,659		
29	昭和50年	21,237									
30	昭和51年	平成15年度	廣済堂	平成24年度 (S55年8月迄分)	国際マイクロ	S47年7月～5 9年：約1MB、 2MB	19,761				
31	昭和52年						22,077				
32	昭和53年						29,331				
33	昭和54年						27,752				
34	昭和55年						32,622				
35	昭和56年	平成23年度	板橋福祉工場	平成25年度 (S59年迄分)	板橋福祉工場	S47年7月～5 9年：約1MB、 2MB	30,194				
36	昭和57年						30,001				
37	昭和58年						32,224				
38	昭和59年						34,992				

合計 532,972

○国体（H15）、アルバム（H16）は上記一覧にないが、フィルムの整理・デジタル化終了
 ・国体（H15）分の画像は約200KB、約2MB
 ・アルバム分の画像は約600KB

資料5 紙目録Ⅰ

埼玉新聞社 写真カード集 目録 (9999は、新聞掲載なし)						
(文書記号……新聞写真 文書番号……2～5 文書名……埼玉新聞社写真カード集S24)						
文書番号	撮影年月日	表題	新聞掲載	年月日	地域分類	写真カード番号
2	昭和24年1月5日	麦の土かけ(北足立郡岡村にて)	1949	1 8		00179~184
2	昭和24年1月28日	家鴨(北足立郡美笹村にて)	9999	99	99 美笹村	00185~188
2	昭和24年2月1日	スケッチ 荒川の土手の白梅(北足立郡美笹村にて)	1949	2 3		00189~190
2	昭和24年2月4日	少年の町(北葛飾郡南桜井村)	1949	2 10	南桜井村	00191~193
2	昭和24年2月9日	近づく節句(浦和・尾張屋にて)	1949	2 11		00194~197
2	昭和24年2月10日	初雪(大宮市にて)	1949	2 25		00198
2	昭和24年2月23日	春の農耕(北足立郡土合村にて)	9999	99	99 土合村	00199~201
2	昭和24年2月24日	ひな人形と桃(浦和・尾張屋にて)	9999	99	99	00202~203
2	昭和24年3月6日	春風(電話局屋上にて)	1949	3 17		00204~205
2	昭和24年3月14日	浦和高の徽章	9999	99	99 浦和市	00206~208
2	昭和24年3月21日	春分の日(浦和・本社にて)	1949	3 21	浦和市	00209
2	昭和24年3月25日	供米状況(北葛飾郡吉川町にて)	1949	3 27	吉川町、出羽村	00210~214
2	昭和24年3月30日	木蓮と教会	1949	4 1		00215~216
2	昭和24年4月初	金魚屋(大宮・氷川参道にて)	9999	99	99 大宮市	00217
2	昭和24年4月7日	浦和市ゴミ焼却炉	9999	99	99 浦和市	00218~219
2	昭和24年4月8日	浦和競馬	1949	4 10	浦和市	00220
2	昭和24年4月12日	県庁の焼跡とサクラ	1949	4 13	浦和市	00221~222
2	昭和24年4月13日	県婦人大会(浦和・埼玉会館にて)	1949	4 14		00223~226
2	昭和24年4月13日	つばめと柳(浦和市北浦和にて)	1949	4 19		00227~228

資料6 紙目録Ⅱ

埼玉新聞社撮影報道写真 昭和35年						
掲載: 新聞に掲載された写真						
関連: 掲載写真と関連した写真						
記事: 記事に掲載されているが写真は使われていないもの						
公開: 撮影記録があり公開する写真						
簿目番号	文書番号	公開区分	表題	地域	撮影年月日	掲載年月日
83	S350102-001	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-002	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-003	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-004	掲載	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-005	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-006	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-007	掲載	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-008	掲載	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-009	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-010	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-011	掲載	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-012	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-013	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-014	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-015	掲載	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-016	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-017	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-018	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-019	掲載	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-020	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-021	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-022	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350102-023	関連	春風をよぶ雛人形	岩槻	昭和35年1月2日	昭和35年2月6日
83	S350105-001	掲載	天然氷の切り出し始まる横瀬村	横瀬	昭和35年1月5日	昭和35年1月6日
83	S350109-001	掲載	駐車禁止区域県庁通り	浦和	昭和35年1月9日	昭和35年1月10日
83	S350109-002	関連	駐車禁止区域県庁通り	浦和	昭和35年1月9日	昭和35年1月10日
83	S350109-003	関連	駐車禁止区域県庁通り	浦和	昭和35年1月9日	昭和35年1月10日
83	S350109-004	関連	駐車禁止区域県庁通り	浦和	昭和35年1月9日	昭和35年1月10日

資料7 撮影年月日目録

昭和38年(1月)		
CD番号	文書番号	撮影年月日
S38・1・2	S380103-001	昭和38年1月3日
S38・1・2	S380103-002	昭和38年1月3日
S38・1・2	S380105-001	昭和38年1月5日
S38・1・2	S380105-002	昭和38年1月5日
S38・1・2	S380105-003	昭和38年1月5日
S38・1・2	S380105-004	昭和38年1月5日
S38・1・2	S380105-005	昭和38年1月5日
S38・1・2	S380105-006	昭和38年1月5日
S38・1・2	S380105-007	昭和38年1月5日
S38・1・2	S380105-008	昭和38年1月5日
S38・1・2	S380105-009	昭和38年1月5日
S38・1・2	S380105-010	昭和38年1月5日
S38・1・2	S380105-011	昭和38年1月5日
S38・1・2	S380105-012	昭和38年1月5日